

道端に彼岸花が咲き、涼しくなりすっかり秋めいて参りました。さて地域の子育て支援として8月に始まった育児サークルに続き、先月からは無料の育児相談も始まりました！現在少しずつご予約を頂いております。子育て中の助産師看護師、子育てを終えたベテラン看護師が新米ママの不安に寄り添って参りますのでお気軽にお問い合わせください。

院長 池澤滋



10月

住所:合志市野々島 2461
(ユーパルス弁天 北側)
TEL:096-242-6633
診療時間:9:00~14:00~18:00
休診日:木曜・土曜午後・日曜祝
URL:<http://www.ikezawaorg/>

感染症情報	前 回	今 回
8/23~9/20		
アデノウイルス	3	2
溶連菌感染症	0	3
感染性胃腸炎	32	49
水痘(水ぼうそう)	2	1
手足口病	50	189
RSウイルス	3	18
突発性発疹	13	18
りんご病	0	0
ヘルパンギーナ	0	0
サルモネラ	0	1
インフルエンザA	0	0
インフルエンザB	0	0
おたふく風邪	1	1

実話

「ほー、そうな」祖父母の影響力

マンガを担当しているきみこさんは元保育士さん。祖母と同居する子は言葉が早くこんな感じになるらしいです。



4コマまんが
作・絵
ちえこ&きみこ

『語り合う』価値

育児相談はじまりました！

30年前の3月、第一子を出産した時、夫の赴任先の福岡県飯塚市へ引っ越すことになった。飯塚はそれまで行く機会がなく当然友人も知り合いもない。久留米の病院で出産し、家に戻る時主人が「桜を見に行こう」と飯塚の片山公園の桜を見に行った。春爛漫のさくら吹雪の中、幸せの絶頂のハズなのに心のどこかで「この先この子と二人で大丈夫かな」ベビーカゴの中の小さな長男を見つめながら何ともいえない不安な気持ちを抱いたことを未だに覚えている。誰一人知人のいない飯塚での生活。朝「いってらっしゃい」と夫を見送ったら夜まで声を出さない日もあった。本当なら赤ちゃんにたくさん語りかける方が良いのに私はそれすらしていなかった。夜、帰宅した夫に「おかえりなさい」という声がかすれてうまく出ない。それから心配した夫は昼休みに必ず私に電話をかけてくれた。「今はスマホがあるからいいけど、あの頃はね〜10円玉握って公衆電話に走ったんだよ〜」この通信を読みながら二人であの頃を振り返る。私のこれまでの人生であんなに人と話さなかったのはあの飯塚での時間だったと言える。決して孤独ではないただ寂しかったのだ。

さてコロナで自粛生活が当たり前になったこの数年

ワンオペ育児で孤立する母親も多いことが問題となっている。パートナーの単身赴任や、仕事で帰りが遅かったり、実家が頼れなかったり。そんな中、社会的にもさまざまな活動が制限されている。



患者様の中でも人知れず孤立している方がいらっしゃるのではないだろうか。さて、今回保育士による育児サークルに続き、新たに育児相談を始めたいと提案してきたのは産婦人科で20年勤務するスタッフ。頼れる人がいなくて、育児に悩んでいるお母さんをたくさんみてきたと彼女はいいます。今は特に外出もままならず「真面目なお母さんほど孤立している状況ではないか」とこのプロジェクトは始まりました。まずは子育てを経験した先輩看護師・助産師4名が皆さんの子育ての悩みに寄り添います。すでに予約が入りチームは動き出しました！何でもネット検索できる時代ですが、今だからこそ「語り合う」ことの価値を実感しています。子育てのそばで「大丈夫ですよ」と頷きながら寄り添う、院長はじめスタッフ全員が、ひとりで頑張るあなたの心のよりどころになれば幸いです。

文責:池澤千恵子

